

復興を歩む

vol.23

深谷地区復興拠点
道の駅「までい館」

深谷地区で、「いたて村の道の駅までい館」(仮称)の建設が進んでいます。

この道の駅は、深谷地区復興拠点エリアの中心施設です。道の駅の西側に位置する太陽光発電施設は、すでに昨年稼働しています。

また、道の駅の北側には、帰村後、イベントや集会など多目的に活用できる公園や、花卉栽培施設が、順次整備されます。拠点エリア内の村営復興住宅は、平成30年度に15戸が整備され、合わせて集会所も建設される予定です。

道の駅の敷地は、県道原町川俣線に面していて、1万5000㎡あまりの広さがあります。場内には58台分の駐車スペースが整備され、道の駅の施設には、休憩・物販のための「までいホール」、軽食コーナー、花卉展示販売ホール、コンビニエンスストア、24時間365日使用できる公衆トイレ、情報提供スペースが整備されます。

道の駅では、軽食・物産の販売、花卉の展示販売などを行い、産業振興・地域活性化に寄与します。また、村内の買い物場所として利用されることも想定し、生活必需品も販売します。交通弱者やお年寄りのための宅配サービスも行う予定です。

さらに、「人」「もの」「情報」が集まる交流拠点となることも目指します。村のよさや、復興状況の発信も、広く行います。

加えて、併設する花卉栽培施設や、花卉の展示販売スペースを中心に、花でいっぱい施設を目指します。高い技術で品質のよい花卉を栽培してきた村の農業復興をアピールする場でもあり、また、花そのものが、訪れる人の憩いのひとときを彩ります。さらに、県道をはさんだ向かい側の農地も、草花が季節を告げる花畑として整備を行います。

「いたて村の道の駅までい館」(仮称)は、現在、村内の仮事務所にて、今年8月のオープンを目指し、開業準備を行っています。営業開始にあたっては、スタッフの募集も予定されています。飯館らしい道の駅が誕生するのを、楽しみに待ちましょう。新しい村の拠点施設を、皆さんもぜひご利用ください。

冬期間も進められた道の駅の工事。右ページの白い塀に囲まれている所が、建設現場です。左ページに見えるのが太陽光発電施設で、昨年5月から稼働しています。発電量は約1,500kwで、将来的には、その売電益を、復興拠点内施設の運営管理費の一部に活用します。また、県道をはさんだ復興拠点エリアの南側、写真手前の農地には、季節の花が咲く広大な花畑が出現する予定です。エリア奥手に建設される復興公営住宅は、平成30年度に15戸が完成する予定です。